

岡崎盲学校いじめ防止の取組評価について（報告）

生徒指導部

1 取組内容と方法

- (1) 学校経営方針に「いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。」といじめに関する取組目標をたて、実施する。
 - ・「いじめ不登校等対策委員会」を設置し、事案の解明と解決に向けての主導的な立場をとる。
 - ・委員会を中心に、情報の伝達・共有を迅速に適切に行えるよう意識的に対応する。
- (2) 学級ごとに、いじめ防止の観点で取組目標を設定し、実施する。
- (3) 生活アンケートを年間で3回実施し、児童生徒の状態の把握に努め、必要に応じて指導に反映できるようにする。
 - ・原則として「小学部」「中学部」「高等部普通科」「高等部保健医療科、専攻科医療科」の4種類のアンケートで行い幼稚部及び各部の重複障害学級は幼児児童生徒の実態を踏まえて行う。
 - ・アンケートの記載内容については、必要に応じて適切な対応を行う。

2 取組評価の方法

- (1) 職員対象アンケートの集計や記載内容から評価をする。
 - ・記載内容から取組に対する理解度や満足度を考察し、文章表記で表す。
- (2) 学級ごとの取組目標に対する反省をもとに評価をする。
 - ・記載事項や担任に対する聴取から、各部の傾向や全校の傾向を考察し、文章表記で表す。
- (3) 生活アンケートの集計や記載内容から評価をする。
 - ・計上される数や記載内容から、全体の傾向を読み取り、文章表記で表す。

3 評価

(1) 職員アンケートから

いじめ防止の観点から、「児童生徒の様子は特に問題ない」とする回答となった。

生活アンケートの実施方法については、児童生徒が直接言いにくいことをアンケートを通して把握し、気になる回答があった場合は担任が聞き取りし、部会で情報共有を図るなどPDCAサイクルがスムーズであった。

(2) 学級の取組評価から

「友達を意識した言動」や「他者理解」などをテーマに発達段階に応じた目標設定をし、いじめ防止に取り組むことができた。幼稚部や小学部では、友達と関わる機会を増やすことで、相手の気持ちを考えながら、自分の考えを伝えたり感謝の気持ちを伝えたりすることができた。中学部や高等部では、友達と関わる中で他者の個性を尊重し、互いを認め合う気持ちを意識してコミュニケーションを取ることができた。

(3) 生活アンケートから

【小学部】

年間を通して、人間関係やいじめに大きく悩んでいる記述は見られなかった。また、児童に悩みがあった場合には、担任が聞き取りをした。今後も普段から日常生活の様子を見たり児童に尋ねたりして、児童に寄り添った対応を心がけていきたい。

【中学部】

回答について、特筆すべき点はなかった。生活アンケートの実施に伴い、生徒の悩みや迷いを担任が聞き取れたり、普段なかなか言い出せないことを生徒が打ち明けられたりするよい機会となっている。

【高等部普通科】

年間を通して、友人関係やいじめに悩んでいるような記述は見られなかった。その他気になった記述についても、担任を通して聞き取りを行ったところ、特に問題は見られなかった。生活アンケートを通して、普段の学校生活からは読み取りにくい生徒の悩みについて知ることができた。

【高等部保健理療科・専攻科理療科】

年間を通して問題のある回答は無かったが、長期欠席をしていた生徒がいるため、聞き取りを行った。今後はアンケートで挙がった点は担任を通して確認するとともに、アンケートで挙がらない点についても日常生活の様子を観察して把握できるようにしたい。